

カンボジア

チャム族

祈りのガイドブック



The Cham of Cambodia: A 30-Day Prayer Guide
Copyright © 2014, A People Loved

This printing 2014

Printed in Cambodia

Scripture quotations are from The Holy Bible, English Standard Version® (ESV®), copyright © 2001 by Crossway, a publishing ministry of Good News Publishers. Used by permission. All rights reserved.

Picture on page 11 used by permission of photographer Grace Chapman.

Website: www.apeopleloved.com

For more information: info@apeopleloved.com

カンボジア チャム族祈りのガイドブック日本語版
2019年9月1日 初版第一刷発行

発行 A People Loved
Oumehc@psmail.net

聖書 新改訳2017©2017 新日本聖書刊行会 許諾番号 4-2-706 号

Contents

はじめに.....	3
Day 1: 生きるための漁.....	4
Day 2: 女性の役割.....	5
Day 3: パラーと霊的功德.....	6
Day 4: 心に届くために.....	7
Day 5: 首飾り.....	8
Day 6: 川べりの危険.....	9
Day 7: 重要な行事: ラマダン.....	10
Day 8: 重要な行事: イード・アル・フィトル.....	11
Day 9: 重要な行事: イード・アル・アドハー.....	12
Day 10: 教育.....	13
Day 11: ハダサーの物語.....	14
Day 12: チャム族の中の多様性.....	15
Day 13: 神へと向かう歩み.....	16
Day 14: 迫害.....	17
Day 15: 伝道的手段: 聖書.....	18
Day 16: 伝道的手段: 福音映画ージーザスフィルム.....	19
Day 17: アブドゥルの物語.....	20
Day 18: 慈しみと発展.....	21
Day 19: 未伝の人々.....	22
Day 20: 異文化に関わる勇氣.....	23
Day 21: 新しい人生.....	24
Day 22: 様々な人生の段階: 子供時代.....	25
Day 23: 様々な人生の段階: 青年時代.....	26
Day 24: 様々な人生の段階: 中年時代.....	27
Day 25: 様々な人生の段階: 老年時代.....	28
Day 26: 英語の学習.....	29
Day 27: 種まきと収穫.....	30
Day 28: イスラム運動.....	31
Day 29: ラーさんの物語.....	32
Day 30: 強固な基礎を築く.....	33

はじめに

神はチャム人をやさしく見守っておられます。地上のすべての民族と同じように、神はチャム人を創造され、彼らをよくご存知です。神の御子は彼らのために苦しみ、死なれました。けれども、チャム人のほとんどは自分たちに対する神の深い愛や、イエスを通して与えられている賜物について知りません。そのため、彼らは私たちの祈りを必要としています。

チャム人は主にカンボジアに住んでいます。ほとんどのカンボジア人はクメール人で仏教徒ですが、チャム人は少数民族でイスラム教に帰依しています。彼らは現在のベトナムに位置するチャンパ王国時代の人々の末裔です。かつてベトナム人との争いにより、多くのチャム人はカンボジアの西側に移住しました。地理的にも離れ、生活様式も異なるため、彼らは独立した民族グループ「西側のチャム人」（この小冊子ではただチャム人と呼びます）と見なされるようになります。残りのチャム人はベトナムに住んでいます。彼らは独自の言語と文化を持っているので、民族的には東側のチャム人として知られています。東側のチャム人の推定人口は8万人、西側のチャム人は少なくとも40万人と言われます。西側のチャム人はカンボジアのほとんどの州で見かけますが、最も多くチャム人が住んでいる地域は、コンボンチャム州とコンボンチュナン州で、大きな川が流れている地域です。詳細は地図をご参照ください。

この祈りの小冊子はカンボジアの「西側のチャム人」を取り上げていますが、多くの祈りの課題は「東側のチャム人」と共通したものです。彼らについての情報や証がこの小冊子に含まれています。登場人物の名前はすべて仮名であり、写真は必ずしも証と関係しているものではありません。これはあえて登場人物を特定できないようにするためです。

この祈りの小冊子は30日で祈ることができるように編集され、祈りのためのテーマや課題が日ごとにまとめてあります。ラマダン（イスラム教徒が行う断食）の30日に合わせて用いてくださっても、全く異なる月に用いていたいただいても結構です。私たちの願いは、この小冊子によって皆様にチャム人がどんな人々であるかを知っていただき、チャム人のためのとりなしの祈りへと励ますことです。皆様のお祈りを感謝しつつ。





Day 1 生きるための漁

11月、イシュマエルは夜明け前に起き、早朝の祈りを終えた後に、自分の船に向かいます。彼の木製の船は長さ13メートルで、小さなディーゼル・エンジンで進むようになっています。朝の空に太陽が上っていく中、ボートは川面をかき分けながら、近くの川へと進んでいきます。イシュマエルのボートにはチェガーという名の大きな網が積まれています。他の漁師たちはたいがいもっと小さなチャールという手投げの網を使うのですが、イシュマエルはチェガーの方が慣れています。彼は今日、他の2人と一緒に漁をします。繰り返し網を下ろし、水中に飛び込んではその網の端っこをひっかけて破らないように注意しながら集め、網を引き揚げて収穫を確認します。多くの場合、一日の稼ぎは5～

10米ドル程度で、3人で分けるにはあまりにも足りません。また、イシュマエルは、川に住む魚の数が減っていることを心配しています。彼はそのいくつかの理由を知っていますが、その一つは電気ショックを用いた不正な漁です。また、漁獲禁止区域や禁漁期間でも、賄賂を支払って漁をさせている人々がいるのです。イシュマエルは多くのチャム人同様、漁によって生計を立てています。他の方法で生計を立てることは困難であるにもかかわらず、漁で生活することはますます難しくなっているのです。将来はいったいどうなるのでしょうか？

お祈りください：

- * ふさわしい規則とその適切な実施によって魚資源が枯渇せず残されていきますように。
- * イシュマエルのような人々が、漁師として生計を立て続けていくことができるように。
- * イエス様が多くのチャム人を「人間をとる漁師」として召してくださいように。



Day 2

女性の役割

多くのチャム人の母親は子育ても仕事もしながら生計を立てています。ある女性たちは、食事やお菓子を作って家の前や道端の小さな店で売ります。他の人々は、日用品や魚を売っている市場の中で店を開いています。ある地域では女性は畑で種を植えたり、収穫したりするために働きます。他の地域では、漁のための網を編んで売っています。

何をするにしても、女性たちは家族の収入の大きな部分を稼いでいます。彼らの文化では、女性が財布のひもを握っているのが普通です。女性たちの方が、より経済観念があり尊敬されています。女性たちが子供に何が重要であるかを教えたり、子供たちを訓練するなど、子育てにおいても重要な役割を果たしています。

しかし、彼らは通常イスラム寺院（モ

スク）における宗教的な奉仕には関わっていません。ほとんどの女性たちは、儀式的な祈りをイスラム寺院ではなく自分の家で、ある時は他の女性たちと共に、ある時は一人で捧げます。共同体の指導者は男性であり、女性はその立場に立つことはありません。女性は外出することもできますし、家庭においては重要な役割を果たしていますが、神様が彼女たちに与えたすばらしさをまだ十分に発揮する機会が与えられていません。

お祈りください：

＊女性たちが神様にあって十分な存在価値を見出し、宗教は単に男性だけの領域でないことを知ることができますように。

＊同時に、彼女たちが宗教の表面的な教えだけでなく、神様が人格的な愛をもったお方であることを発見することができますように。



Day 3

パラーと靈的功德

パラーとはチャム語で「靈的な報酬(功德、ご利益)」と訳せることばです。チャム人は唯一の神を信じており、天国と地獄の存在も信じています。彼らは天国で永遠に生きることを望んでいます。彼らの考えでは、人は天国に入るために十分な靈的な報酬がなければなりません。彼らにとって靈的な報酬とは良い行いをすることと、アラが伝えた規則に従うことによって得られるものです。

このようにして、彼らは日に5回の祈り、ラマダン(断食月)の期間中の断食、酒や豚肉などの汚れた食品を避けること、メッカへの巡礼、貧しい人への施し、他者への善行などに一生懸命に励むのです。彼らは人が天国に行けるのかどうかは最終的にはアラが決めることだと信じています。天国へ必ず行けると言う確信はない

ものの、パラー(靈的な報酬)をできるだけ多く持っていることは大いに助けになるのです。本質的にチャム人は、靈的な報酬を得るために彼らの行いに頼っているのです。これが彼らに教えられてきたことです。救いと新しい人生、天国における永遠のいのちを与えてくださるために、イエス・キリストがなしてくださったみわげに、人はへりくだって拠り頼むことができる、このよい知らせをほとんどのチャム人は聞いたことも、理解することもありません。

お祈りください：

*チャム人が天国への自分の道を確保するためには、自分の良い行いだけでは十分でないことを知ることができますように。

*彼らが、キリストの十字架での御業が人の罪の代価として完全に十分なものであり、人を天国へ導くことができるよい知らせであることを知ることができますように。



Day 4 心に届くために

「しかし、信じたことのない方を、どのようにして呼び求めるのでしょうか。聞いたことのない方を、どのようにして信じるのでしょうか。宣べ伝える人がいなければ、どのようにして聞くのでしょうか。」(ローマ人への手紙10章14節)

新しい言語を習得することは実際大変骨の折れる仕事です。もし2つの新しい言語を学ばなければならないとしたらどうでしょうか。これはチャム人が母語で福音に触れようとすると、よく起きることです。「チャム族のための最も大切な祈りの課題は何だと思えますか」と問われたある信者はこう答えました。「母語で神のみことばがほしいと願い、祈っています。私の村の長老や宗教指導者たちも、チャム語での聖書を求めています。チャム語は

私たちの心に届くのです。国の公用語ではなく、母語で書かれた聖書を読めば、チャム族の人たちも学びたいという思いがかき立てられるでしょう。」チャム語への聖書翻訳への熱心な取り組みは続いています。これはまさに気の遠くなるような、根気のいる仕事です。特に悪しき者がこの大切な働きを妨害しようとしているため、多くの祈りが必要です。母語で福音を伝えられる人がごくわずかしかないなら、どうして多くの人たちが福音に出会えるのでしょうか？さらに翻訳が完成した後は、外国人の働き人と読み書きのできるチャム族クリスチャンの両方が人々にみことばを伝え、教える必要があります。

お祈りください：

＊現地にきてチャム語を学ぶ働き人がさらに与えられますように。

＊チャム語を学んでいる人たちのために。困難な学びの中、御父が彼らを守ってくださいますように。

＊聖書のチャム族語翻訳や聖書を教える働きに携わる異文化で仕える働き人と、現地チャム族の助け手たちのために。



Day 5 首飾り

幼いマリキ少年は首飾りをかけています。しかしこれは私たちの多くが考えるような普通の装飾用ものではありません。この首飾りに下がっているのは薄い鉛片を丸めたもので、そこにはコーランの特定の引用句が彫られているのです。

マリキの両親になぜ息子にこれをつけさせているのかと聞いたなら、「この子はよく泣くから」とか「病弱なので」などの返事が返ってくることでしょう。マリキの首飾りは飾りではなく、彼のためのお守りなのです。息子の泣き癖や虚弱体質は悪霊が原因だ、というのが両親の考え方です。そのため息子の首にお守りをかけて、霊的な勢力から守ろうとしているのです。コーランは聖なる書、力ある書とされています。そのためここから引用してお

守りを作ろうとするのはごく自然なことなのです。お守りは両親が作る時もありますが、多くの場合地域の中で作る技術を持つとされる特定の信者たちが作ります。大多数の子供たちがこのようなお守りをつけている地域もあります。その地域が悪霊信仰の強い影響を受けていることの印と言えるでしょう。

お祈りください：

*チャムの人々がイエス・キリストのみわざによって与えられる真の守りを見出すことができますように。

*人々の心を罰し、萎縮させようとするサタンが打ち負かされるようにお祈りください。



Day 6

川べりの危険

その日もすべてはいつものように始まったように見えました。小さな船の上でご飯を炊き、簡単な朝食を作り、川で洗濯をし、赤ん坊の世話をしている間、幼い息子をおとなしくさせておく…。しかし、その日ソフィアは体調が悪く、赤ん坊をあやしながら眠りこんでしまいました。ところが、その間に4歳の息子が船から土手へと上って親戚の家に行こうとしたのです。結局その子が目的地に行きつくことはありませんでした。数時間後、小さな溺死体が漁船が係留されている川の入り江で発見されました。ソフィアは泣き叫び、工場で働いていた叔母たちは連絡を受けて急遽駆けつけ、父親であるソフィアの夫も悲しみのあまり茫然自失の状態でした。やがて夫は激怒し、ソフィアをなじり、そのあまりの剣幕に親戚一同は彼が冷静になるまでソフィアから引き離し、ソフィアはそ

んな親戚たちの後ろで、おびえて身を縮めているばかりでした。

しかし、悲しみに押しつぶされんばかりだったその当時、ソフィア自身は知りませんでした。近所には神の僕の一人在、彼女のために祈っていたのでした。ソフィアがそのクリスチャンの女性に会ったのはその事件からずっと後のことで、彼女の夫も落ち着き、末の赤ちゃんが失った子供の年齢に達し、さらにソフィアが新たな赤ちゃんを授かった頃でした。しかし残念なことに、こうした話がすべてソフィアのような結末となるわけではありません。毎年、川で子供たちが溺れる事件は後を絶ちません。そして何か不幸なことがあった時に、非難されるのは多くの場合女性たちです。夫が妻の過失とみなした時には、ただ虐待を耐え忍ぶか、または捨てられてしまうこともあるのです。

お祈りください：

＊川でまたは病などの事故で愛する子供たちを失った人々に、神の慰めと癒しが与えられますように。

＊虐待を受けている女性たちが、神がどれほど彼女たちを愛し、大切に思っているかを知る機会が与えられますように。

＊チャム人の家庭が、キリストの愛、赦し、温かい慈しみを知ることができますように。



Day 7 重要な行事: ラマダン

ラマダン月は重要な聖なる月です。世界中のイスラム教徒が30日間、日の出から日没まで、日のある時間は一切の飲食を絶ちます。太陽が沈み夜になると、人々は集まって共に断食を終えます。この月の断食はあらゆるイスラム教徒が守るべきもので、霊的祝福(功德、ご利益)を得る機会ともされています。そして、この祝福は死後の世界において大変重要なのです。何年も繰り返しているから慣れている、と多くの人は言いますが、実際の断食は辛いものです。それでも、これは当然すべきものとされているのです。すべてのイスラム教徒が完全な形で断食するわけではありませんが、そうすべきというプレッシャーがあります。同時に、この月に行われる特別な集会や食事を共にすること、そして同じ体験を分かち合うことで、チャム族

の連帯感も深まるのです。ラマダン月の間はコーランを唱え、通常よりも祈りの時を増やし、神のことを思うよう求められます。異文化で仕える働き人にとって、人々と深い話をするのによい時ですが、悪しき者が様々な手段を通して、人々を落胆させたり攻撃をするため、霊的な抵抗力が強い時期でもあります。

お祈りください:

*チャム人が祈り断食する時、天の御父が彼らをご自身のもとに導いてくださいますように。

*ラマダン月にも異文化で仕える働き人や信者たちに、周囲の人々に福音を証しする機会が与えられますように。

*この月、異文化で仕える働き人や信者たちが悪しき者から守られますように。



Day 8

重要な行事: イード・アル・フィトル

イード・アル・フィトル(断食明けの祭り)は、おそらくイスラム教徒にとって最も大切な日でしょう。ラマダン月の最終日の後に続くもので、チャム族は通常朝 7 時半からのモスクでの祈りと共にこの日を迎え、祈りの後は家に帰ります。

イード・アル・フィトルで特徴的なものは色彩、食物、訪問といえるでしょう。人々は真新しい服を着ますが、特に女性はイスラム的で色彩豊かな衣装を身にまといます。ほとんどの家庭では、牛肉や鶏肉入りの美味なカレーといった特別料理を用意します。人々は家々を訪問してまわり、訪問先で食事を共にします。訪問時には他にも大事なことが行われます。人々がお互いに挨拶し、「私を赦してください」と言い合うのです。この一年間に他者に犯した罪への赦しを乞うためです。この言

葉を交わし合う時、人々がどれほど心を込めているかはわかりませんが、それでもこの習慣は大切にされています。これは自分が犯す罪、そしてその罪から清められたいという願いに人の心を向かわせます。こうした態度は明らかに福音のメッセージと通じるものがあります。

午後ほとんどの訪問を終えると、多くのチャム族は連れ立って公園や川岸や繁華街などに繰り出します。特別な日と断食の季節を閉じるにふさわしい過ごし方と言えるでしょう。

お祈りください:

* イード・アル・フィトルの日、人々がそれぞれ犯した罪への赦しを真剣に願いますように。

* この習慣によって人々の罪に対する自覚が深まり、神によって完全に赦され、清められたいと願う思いも増し加えられますように。



Day 9

重要な行事: イード・アル・アドハー

イード・アル・アドハー(犠牲祭)は、イード・アル・フィトルの約10週間後に祝われる祭りです。アブラハムが息子イシュマエル(イスラム教ではアブラハムが捧げようとした子供はイシュマエルだと考えられています)を生贄として進んで捧げようとしたことを記念して、この日は羊、山羊、牛が生贄として捧げられます。アブラハムは神の預言者としてイスラム教徒の間でも良く知られており、真の信仰の人として敬われています。生贄用の動物を買って捧げることが奨励されているため、イード・アル・アドハーの前にはモスクの近くに動物の市場が立ち、人々が買い求めていきます。カンボジアでは通常マレーシアや他の国のスポンサーによって動物が提供されています。チャム族ではほとんどの人が山羊や羊を食べる習慣がないため、普

通は牛が生贄として用いられます。そしてその肉は切り分けられて、慈善の行為として貧しい人々に配られるのです。多くの地域ではその経済状態に関わらず、すべての世帯が肉を受け取ります。イード・アル・フィトルのように、カレーのような特別料理が供され、チャム族は家々を訪問して回り、食事を共にし、赦しを乞い合い、親睦を深めます。

お祈りください:

*多くの人たちがアブラハムの生贄、つまり神が子羊の形で供えられた生贄、の重要性を知ることができますように。

*チャム人の人々が、神の真の子羊である主イエスこそが究極の生贄であり、完全に罪を拭い去ることができるお方であるとはっきり知ることができますように。

*チャム人の人々が、アブラハムのように行いではなく、信仰によって義とされる神への信仰を自分自身で体験できますように。



Day 10 教 育

州都コンボンチャムでは10代のチャム人少年たちを多く見かけます。彼らは皆両親と離れ離れでここに住んでいます。なぜでしょうか。一言で言えば「教育」です。

カンボジアの教育システムはまだ発展途上の段階です。小学校は普通どの家でも、徒歩もしくは自転車で通える範囲の所にありますが、中学・高校はそうではありません。多くの場合、進学するためには子供の方が学校に近い地域に移り住まねばならないのです。可能ならば親戚の家に住まわせてもらえますが、複数の子供たちが賃貸の部屋や家に一緒に住むこともあります。

しかし、これは理想的とはいえません。新しい地域に移った子供たちの多くは孤独を感じたり、飲酒、麻薬、仲間内のプレッシャー、自由なネットサー

フィン、恋愛問題などの新たな誘惑にさらされるからです。こうした誘惑をうまく乗り越えられる生徒もいますが、生徒によっては人生が崩壊しかねない状況に陥る場合もあります。高校卒業の後すらも、大学へ進学するなら家から遠く離れた主要都市や首都プノンペンに住むことになるため、様々な問題が続きます。しかし、よい面で言えば、人々が多く集まる都市環境の中では、彼らが主イエスの福音に出会う機会もより多くなるのです。

お祈りください：

＊故郷から離れた地域に移り住み学んでいるチャム人の生徒たちが、様々な悪影響から守られますように。

＊彼らにより友達が与えられ、正しい決断をするための知恵が与えられますように

＊彼らが周囲の友達や地域の働き人を通して福音を知る機会を得られますように。



Day 11

ハダサーの物語

門が開くと子供たちの一団がわあっと賑やかに部屋の中に駆け込んできました。そして素早く床の上に座りこむやいなや、塗り絵を始めました。しかし、ハダサーだけは皆から遅れてゆっくりと足を引きずるようにしてやって来ます。そして部屋の中に入るべきかと迷った様子で、一人離れて立っていました。どこに立っていても座っても、多分自分はそこにおもらしをしてしまい、恥ずかしい思いをするのだと彼女はわかっていました。

ハダサーは生まれつき脊椎の左右の骨が分離したままの脊椎披裂でした。そのため、まだ13歳だというのに、ハダサーはすでに様々な健康上の問題に苦しんでいました。しかも彼女は2人の弟の世話をし、母親のご飯炊きも手伝っています。彼女は感じがよく思いやりのある少女ですが、弟たちの

ように学校に行きたいと願っています。子供用の病棟にいた頃、先生が来て文字を教えてくれたことを、今でも彼女は覚えています。ハダサーの住む村には何人かの外国人が住んでいて、彼女が治療を受けられるよう助けてくれました。そうして彼女は一回手術を受けることができ、さらに最近では新たな治療法のおかげで、もっと普通に近い生活を送れるかもしれない、という希望を新しい主治医から告げられています。この外国人たちは私たち家族とはちょっと違うものを信じていることをハダサーは知っています。彼らは事あるごとに、イエスのことやイエスが罪の赦しを与えてくれる、と話しています。

お祈りください：

＊ハダサーが癒され、完全に通常の生活が送れますように。

＊様々な障がいを持っていたり、特別な支援が必要なチャム人の子供たちのためお祈りください。

＊神がこのような状況や神の僕たちを用いてくださり、ご自身の愛、慈しみ、希望のメッセージがこうした子供たちとその家族に届けられますように。



Day 12

チャム族の中の多様性

人類学者のウィリアム・コリンズ博士は、チャム族の中に3つのグループがあると述べています。そのすべてがカンボジア国内に住み、イスラム教徒で、互いに兄弟意識を持っています。しかし、そこには大きな違いもあります。

最大のグループはチャン・ワンと呼ばれるグループでチャム人の60パーセントを占めています。彼らはチャム語を話し、毎日5回祈り、マレーシアやクエートのようなイスラム教国との強いつながりや支援を求めています。

イマムサンと呼ばれるグループはチャム語を話し、たとえ他のチャム人から、完全にイスラム的ではない部分がある、と批判されても、古くから伝わる伝統をこよなく大事にしています。チャム語の表記についても、昔ながらの文字の保存と普及に努めています。他の2つのグループとは対照的に、彼らは日に5回祈るイスラム教徒とは違

い、かつて指導者に教えられた週に一度の、金曜日の昼間に祈る習慣を守っています。

最後のグループはチュヴィアと呼ばれるグループで、チャン・ワングループのように他のイスラム教国との交流が活発で、日に5回の祈りを捧げます。しかし、このグループはチャム語を話しません。彼らの多くは、自分たちをジャワやマレーシアのような地域から何世紀も前にカンボジアに移り、南部沿岸地域に定住したイスラム教徒の末裔と考えています。そのため民族的にチャム人ではないと考えられますが、イスラム教徒として他のチャム人ともつながりがあるために、多くの場合“チャム人”とみなされています。

お祈りください：

＊神がチャム族の3グループを祝福してくださいように。そして神のお働きによって彼らがイエスを主としたアイデンティティを得ることができるよう。

＊すべてのグループがはっきりと福音を聞き、成長途上の地元教会の歩みがさらに前進し、各グループの間に広がっていきますように。



Day 13

神へと向かう歩み

ジェームス・エンゲルは、神について全く何も知らない段階から、神の個人的な救いにあずかり、神にあって霊的に強くなり、成熟に向かうまでを表す段階表を作りました。この表の中には「福音を意識する」、「福音の意味するところを理解する」、「福音に対する積極的な態度」、「個々の問題の認識」、「悔い改めとキリストを信じる信仰」、「(キリストの)からだへの合体」、「行動を伴う成長」などの鍵となるステップがあります。

これはチャム族のことを考える上でも参考になります。彼らの多くは真の神とその神の幾つかのご性質を理解していますが、愛の神や親密な関係を求める神という理解はあまりありません。さらにイエスについてほとんど知らず、おそらくは他の教師からの誤った知識も入っているようです。チャム

人はキリストに対して否定的な見解を持っているのが普通です。そのため彼らが実際に個人的な悔い改めをし、主イエスのみを信じたことを示す態度の変化と成長が見られるかどうか大切なのです。福音を伝えるには多くの忍耐強い働きが必要です。そしてチャム人との会話は全て、彼らの神へと向かう歩みと霊的成長を助ける上で重要なのです。

お祈りください：

＊クリスチャンがチャム人に対し、配慮と忍耐をもって福音を伝えられますように。

＊また、チャム人が夢やビジョン、書籍やあらゆるメディアを通して救い主イエスについて知ることができるよう。

＊これらすべての“種”が、人々がさらに神を理解し、自分にはキリストが必要だと感じ、悔い改めてイエスを信じ、霊的に成長し、積極的にキリストのからだに関わっていく過程において、御霊によって用いられますように。



Day 14 迫害

世界の様々な地域で、主イエスに従う者たちが迫害を受けています。チャム人にも同じような困難に直面している人々がいます。ある若い信者はキリストに従う者として受洗を控えています。が、両親にそれを伝えていませんでした。後にそれを知った両親は息子に対して怒りをあらわにしたとのことです。他にも馬鹿にされたり、軽蔑された信者たちもいます。時には怒りにまかせた暴力という、もっと深刻な事件すら起きています。チャム人であることは、すなわちイスラム教徒ということであり、そこから逸脱する行為は裏切りと罪であるとみなされます。

宗教指導者の中には、キリストに従う者たちとつきあったり、彼らの話をまじめに聞いてはいけな、と教える者たちもいます。チャム人の多くは福音

についての深い会話に興味を示しません。そのため、もしキリストに従うとはっきり公にしたならば、嘲笑や敵対行為に会うことは想像に難くありません。ほとんどの人が迫害によってつらい重荷を負わされ、落ち込みます。しかしそれがキリストに従おうとする者たちの現実なのです。

主に従う者はわずかで、彼らの歩みは孤独な歩みです。御父がこれらすべてに耐える力を与えることがおできになりますが、それでも彼らは神の深いご臨在と他の兄弟たちの祈りが必要なのです。

お祈りください：

＊冷たい言葉、怒り、批判、もしくはもっとひどい形で迫害されている信仰者たちのためにお祈りください。

＊迫害の渦中にある信仰者たちが、主イエスのご臨在を身近に感じることができるよう。そして主ご自身が明確な慰めとなってくださいように。

＊迫害が襲ってくる時にも信仰者たちがしっかりと立ち続けられるように。そして、愛と大胆さをもって対応する力が与えられますように。



Day 15

伝道的手段：聖書

聖書は世界のほとんどの人がすでに手に入れることができます。しかし、また聖書が自分の母語に翻訳されていなかったり、まだ聖書のごく一部しか母語で読めない人々もいます。

チャム族にも独自の文化と言語がありますが、感謝なことにチャム語への聖書翻訳が進んでいます。多くの努力の結晶として聖書の一部分がすでにチャム語に訳されましたが、まだ完成までには何年もかかるでしょう。その過程には複数の人たちによる仮訳、続いて様々な角度からの校正と改訂、そして印刷といった複雑な作業が含まれます。完成に至るためには、明らかに多くの外国からの働き人、また現地の働き人が必要です。

しかし、着実に作業が進んでいることを感謝します。神を理解し、その御心に沿って生活する上で聖書は土台です。現在すでに現代クメール語による

改訂版が出版されています。これはクメール語のスタンダード版聖書を用いていますが、主要な宗教用語はチャム族にもわかりやすい表現に変えられています。現在全巻この改訂版で読めるようになっています。そして実際の聖書を学ぶ会に使われています。青年たちは、カンボジア人学校で教育も受けているため、クメール語の読み書き、会話もできるのです。

お祈りください：

＊チャム語の聖書部分訳と、クメール語の改訂版のゆえに神に感謝してください。

＊さらなるチャム語への聖書翻訳の働きのためお祈りください。まずは新約聖書の完成を目指しています。

＊知恵深く忍耐強く霊的に成熟した働き人が、この大切な働きのためにさらに与えられますように。



Day 16

伝道的手段：福音映画―ジーザスフィルム

ここはカンボジア北西部のひなびた小さな村です。夕闇がせまる頃、村の人々が集まってきました。外からの訪問者たちが到着したからです。この訪問者たちは村に時々訪れては村人たちの健康問題について何かと助けくれ、人々と交わり、神についての話をしていきます。

この夜、訪問者たちはある家の柱と柱の間に大きな白い布を張り、手作りの映写用スクリーンを準備しました。コンピューターとLCDプロジェクターも設定されました。村には電気が通っていないので、発電機に接続している二輪トラクター経由で電源を調達しました。こうして全ての準備が整い、上映開始です。

これはジーザス・フィルムという、世界中で上映されてきた映画です。人々

は食い入るように画面を見つめ、登場人物たちの服装や、地形、木々の少なさ、イエスの弟子たちが捕った魚の種類に至るまで、目に入る様々なものについて口々に話します。すでに村人たちは主イエスの話を聞いているので、この映画はそれを画面で見てもらって、村人たちの中に定着させる機会なのです。このジーザス・フィルムはDVDプレイヤーに接続したテレビ画面で映すことが多いのですが、この日は大きな画面に上映しました。この映画は人々に受け入れられやすく、神の真理を伝える上で強力な伝道ツールとして、カンボジアの多くの地域で用いられています。

お祈りください：

＊多くの人々がこの映画を観ることができるように。そして福音が分かりやすく人々に伝わりますように。

＊人々が神のもとに立ち返るために御父がジーザス・フィルムを豊かに用いてくださいますように。この映画がカンボジア全土に大きなインパクトを与えるようにお祈りください。



Day 17 アブドゥルの物語

アブドゥルは地方出身の青年です。彼の住む地域にはまだ電気が通っておらず、人々は車のバッテリーを使って、小型電球やおそらくテレビの電力すらもまかっています。バッテリーが切れかかると、ディーゼル発電機を有料で使わせる人のところへ持ち込んで充電するのです。

長年アブドゥルは健康問題で苦しんできました。彼はやせてひ弱に見えますが、それでも常に希望を抱きつづける、気楽な性格の持ち主です。彼の健康を心配した信者の助けで、彼は特別な診察を受けることができました。そのおかげではっきりとした診断がつき、命びろいしたのです。アブドゥルはイエス・キリストを通して与えられる救いについてもはっきり教えられました。そして、多くの人と何度も議論

を重ねた末に、彼はイエスを信じ彼に従う決心をしたのです。

現在、アブドゥルは信仰者として成長し、自分の信仰を隠したりもしていませんが、他方でどうやって家族に信仰を伝えたらよいかと迷っています。現在彼はプノンペンで携帯電話を修理して売っている自分の店を持ち働いています。健康状態も落ち着いていて、弟子訓練も受けています。様々な形で神の愛を見聞きしたことで、アブドゥルは個人的に神を知り、将来に希望も持てるようになったのです。

お祈りください：

- * アブドゥルによい診察の機会が与えられたことに感謝しましょう。
- * 今後も彼に必要な治療が適切に与えられるようお祈りください。
- * アブドゥルがこれからも主イエスに従う者として成長し、主の証人として用いられるように。また他の信者たちを教え、励ます者となっていきますように。



Day 18

慈しみと発展

カンボジアでは医療・衛生面の課題が山積しており、チャム族も例外ではありません。カンボジアの人々の多くは清潔な水やトイレがない状態です。人口は増えていますが、熟練した医者や看護師は少なく、医療ケアは限られています。教育を受ける機会についても多くの場合費用が比較的高く、自宅からも遠いのが実情です。

こうした課題にもかかわらず、神はあらゆる信者たちが地の塩、世の光となり、人々を愛するよう召しておられます。外国からの働き人たちは、通常チャム人への経済支援の手段も持ってカンボジアにやって来ますが、どうそれを有効活用するかが問題になってきます。もし助けが必要な人々にただ支援するだけならば、人々は神に目を向けるより、むしろ働き人たちに不健全な形で依存してしまうでしょう。他

方、もし生活上の必要に働き人たちが全く応えないならば、働きは神が望まれる結果に至らないことでしょう。働き人であってもそうでない信者であっても、チャム族への証を目指す人々には知恵が必要です。教育、健康・衛生キットの配布、キリスト教系の診療所で質の高い診察を受けるための経済支援、清潔な水を確保するための井戸の発掘、奨学金の授与など、個々の必要に合わせた支援がチャム人のために、主にある喜びをもって行われてきました。願わくはチャム族の人々がこれらの働きを通して主イエスを見出しますように。御父がご自身のご栄光のために働きを用いてくださいますように。

お祈りください：

＊外国からの働き人たちに、チャム人の生活の必要に応えるために必要な知恵、技術、手段が与えられますように。

＊働き人たちが主イエスがなさるようにチャム人に仕えられるように。傷つき、必要を抱える人々に対して、キリストのような態度で接することができますように。

＊働き人たちが、自分たちに依存するのではなく、究極的に神に信頼するようチャム族を導いていきますように。



Day 19

未伝の人々

1982年、異文化伝道のリーダーたちがシカゴで一堂に会し、特別な会議を開きました。そこで未伝の民族とは、その中に福音をしっかりと伝えられる地元人のクリスチャングループが存在しない民族、と定義づけられました。この定義によるならば、カンボジアのチャム人は未伝の民族となります。

チャム人の中には確かに複数の信者たちがいます。定期的に集会を持ち、その地域において自分たちはキリストのからだの一部だと考える群れが複数あります。神によってこのような信者たちとその群れが起こされた、その素晴らしいお働きに感謝します。

しかし、同時に、現在の信者たちは同族の人々に伝道する力も資源もまだ持っていません。そして信者や群れの

数はまだあまりに少ないため、伝道を簡単にあきらめてしまいがちです。

チャム人は世界中にある何千もの未伝民族のほんの一例にすぎません。しかし、神がすべての民を創造され、彼らにご自身を豊かに体験してほしいと熱望しておられるゆえに、彼らは神の御目に尊い存在なのです。世界中のすべての未伝の民族が福音を聞き、神を深く知ることができますように。

お祈りください：

＊チャム人の中からさらに救われる人々が起こされるよう、そして同族の人々に力強く伝道する器として用いられますように。

＊チャム人に福音を伝えるために、進んで立ち上がる働き人がチャム人の外からも起こされますように。

＊チャム人のクリスチャンが成長し、やがては他の未伝の民族への宣教に加わりますように。



Day 20

異文化に関わる勇氣

チャム人はカンボジアの少数民族で、過半数を占めるクメール人に比べて、その人口はわずかです。クメール人にチャム人についてどう思うかと聞いたなら、おそらく「彼らは怖い」という反応が返ってくるでしょう。なぜでしょうか。「黒魔術を使うから」というのが彼らの答えです。多くのクメール人はチャム人に対して恐れと疑いの感情を抱いています。チャム族は霊を操って人を罰することができるから、避けた方が無難だ、というのです。

しかし、クメール人がチャム人の近くに住み、彼らと親しく交われば、そんな恐れは消え去るのです。まだ福音を知らないクメール人への伝道に熱心なクメール人は多いのですが、そんな彼らもチャム人と福音に関する会話をあえてしようとはしません。その理由には伝道の難しさ、文化を越えて

のコミュニケーションが必要という現実問題があります。福音の事実は変わらなくとも、相手の文化や理解を考えていかなければならないのです。

感謝なことに、チャム人伝道に関心を示すクメール人たちもいます。彼らは勇氣をもってチャム人に関わっています。しかし、未伝のチャム族のそばに住みながら、そのような関わりをもたないクメール人のクリスチャンも何千人といえるのです。彼らが大胆かつ繊細な配慮をもって証をするならば、チャム人に大きな影響を与えることでしょう。

お祈りください：

＊チャム人とクメール人の間の交流が活発になり、人々の持つ疑いや恐れが取り去られていきますように。

＊チャム人の救いのために祈るクメール人の教会が起こされますように。

＊クメール人信者たちに思いと力が与えられ、文化を超えてチャム人に福音を伝えていきますように



Day 21 新しい人生

チャム人のイブラヒムとその家族はメコン川のほとりに住んでいます。50歳を超えているイブラヒムは、稲作やその他の換金作物の栽培で生活しています。彼の周囲には彼の親戚を含め、チャム人が多く住んでおり、話をする時にはいつも複数の人たちがそこに同席しています。

過去2年間、異文化で仕える働き人たちはイブラヒム一家を訪ねては話をし、福音を伝えてきました。よい診療所での受診など、働き人たちが家族の健康問題を助けてくれたことに、イブラヒムは感謝しています。働き人たちは再び彼を訪ね、その一人がもう一度福音を語り、赦しの希望やキリストにある新たないのちについて伝えました。イブラヒムの親戚たちも熱心に耳を傾けていました。そして、キリストによる赦しのみわざを信じません

か、と招いたところ、その内の数人が真剣に応答してくれました。彼らは自分たちの行いではなく、彼らのためになされたキリストのみわざゆえに、新たないのちを受けたのです。

こうしてイブラヒムと数名のチャム人は、新たな道を歩み始め、共に集会を持ち、聖書を学ぶ方法について訓練をうけています。しかし、キリストに従うこと、そしてキリストのからだとして生きるとは何を意味するのかについて、彼らはまだ学ばなければなりません。感謝なことに、彼らの中には前向きに進もうという真摯な思いが見られます。

お祈りください：

＊御父がイブラヒムたちの信仰の決意を確かなものにしてくださいように。そして疑いや恐れ、迫害など、悪しき者の攻撃から彼らを守ってくださいように。

＊この信仰者のグループが定期的に集い、そのグループの交わりの中で自分たちをキリストのからだとしてとらえていくことができますように。



Day 22

様々な人生の段階：子供時代

チャム人の中にはいまだに栄養失調に苦しみ、すでに他国では治療可能な病のために命を失っている子供たちが多くいます。貧困が大きな要因になっている反面、問題の中には基本的な健康管理に関する知識の不足が原因の場合もあります。多くの子供たちが煮沸やろ過のされていない水を飲み、食事の前に手を洗うこともしません。そのために目の炎症にかかり、片目を取らなければならなくなった子供もいます。

また現代の医薬品が手に入る環境にあっても、人々の中には薬を疑った

り、病の原因を細菌やウイルスや寄生虫ではなく、悪霊と考えて恐れる人たちもいます。マラリヤやデング熱のような、蚊が媒介する病気にかかる人も多くいます。デング熱は雨期に多く発症しますが、もし早期の発見と治療がなされなければ、子供たちは臓器出血を起こし、命にかかわる場合があります。そのような場合には輸血が必要ですが、献血をこわがっている人が多い国では、輸血用血液が慢性的に不足しているのです。

お祈りください：

＊家族の健康をどうしたら守れるか、そしてどんな時に医療機関に頼るべきかといった知識を、各世帯がさらに得ることができますように。

＊各家庭が家族の医療費を別に取り分けておくことができるように。そして、親たちが子供たちの健康にもっと意識を向けていきますように。

＊子供の食生活や重篤な病気の一步手前にある子供への対応法を教えるクリスチャンの農村開発者たちのために。

＊診療所や病院でより深刻な状態の子供たちを診療、治療しているクリスチャンの医療スタッフたちのために。

＊病の子供たちの命を救うため、必要な量の輸血用血液が備蓄できますように。

＊チャム族の子供たちがクリスチャンの働き人や診療所を通して神の愛を知り、主イエスは彼らのために必要を備えて下さるお方であることを知りますように。



Day 23

様々な人生の段階：青年時代

他のあらゆる国の青年たちと同じく、チャム族の青年たちも学校、テレビ、職場で見る現代社会と、両親や祖母の伝統的な世界の間のギャップに直面しています。さらにイスラム教の儀式や預言者たちが7世紀から続けてきた慣習に従う事となると、このギャップはますます大きくなります。

友人たちがジーンズをはいているのに、チャム人の青年たちは長いローブや伝統的なサロンを着るよう勧められます。女の子たちはおしゃれなデザインの服を着た映画女優たちをいつもテレビで見ているのに、長いスカートををはき、頭にはスカーフをかぶるようと言われるのです。さらにアルコール類や麻薬が簡単に手に入る社会

にいるとなれば、多くの家族の中で衝突が起きるのは当然といえます。

それでもそのギャップを埋めようと、共に現代社会を歩もうと努力している人々もいます。両世代があらゆる文化や世代の文脈に適応できる神の真のみことばの中に、しっかりとした原則や価値観を見出すことができるようお祈りください。

お祈りください：

＊青年たちが持つ不安定さ、動揺、不安が霊的な飢え渴きをもたらしように。そして、福音の真理を聞く時に彼らの心が満たされますように。

＊麻薬に手を出し、赦しと中毒からの解放が必要な青年たちに神の恵みが与えられますように。

＊信者たちが社会の中の様々なギャップを乗り越え、異なる世代や主義主張を持つ人々を愛することができますように。

＊キリストにしっかりと従い、様々な課題に打ち勝つ道を示すことができる家族が起きますようにお祈りください。



Day 24

様々な人生の段階：中年時代

アイサは50代半ばの女性です。早朝からお菓子を作っては、家の前に置かれた木製の屋台で売っています。稼いだお金は家族の食べ物や子供たちの学費になります。子供たちの中には真面目に勉強する子もいれば、そうでない子もいます。

カンボジアの学校では学費や食費、個人授業のために毎日お金を払わねばならず、アイサは生活のやりくりで頭を痛めています。夫の稼ぎは不定期で、使えるお金は限られています。

夫婦は経済的な安定を心から願っています。中にはそれを享受している人たちもありますが、ほとんどの人は日々苦しい家計の中を何とかやりくりしています。アイサの周りにはたくさんの子供たちや親族がいますが、いつも誰かが体調をくずしているようです。

病気になるとたいがい薬を買ったり医者と呼ばねばならず、費用は現金で払わなければなりません。経済的に安定すれば、アイサの子供たちはしっかり教育を受けられ、家族は治療も受けられ、やがて将来年を取って思うように動けなくなったとしても、希望が持てるでしょう。

お祈りください：

＊アイサやアイサのような人々が経済的な安定を得ることができるよう。
(経済的な安定により、多くの子どもたちが高校まで教育を受けられますように。ある村では80%もの子供たちが6年生で学校をやめ、家の仕事を手伝っています。)

＊チャム人が教育を受け、収入を得る手段を見つけ、適切な医療ケアを受けることができる恵みを神が与えてくださいますように。

＊経済的な苦労の中であって、チャム人が神を求め、神を体験することができますように。彼らが神にあって真に豊かな人生を得ることができますように。



Day 25

様々な人生の段階：老年時代

オン・アハメットは70代の男性です。チャム人の多くの高齢者と同じく、彼も自分の年齢をはっきりとは知らず、いろんな人との話からおよその年齢を推測できるという状態です。彼はやせて体力も落ち、顔はしわだらけで頭もほとんど禿げ上がっています。また、最近では病にかかり、モスクに行って他の信者たちと祈れないことを悩んでいます。彼は生まれた時から祈りは大事で霊的功德にもなる、と教えられてきました。加えて、彼はモスクでの祈りは自宅での祈りより何倍もご利益があると信じています。

オン・アハメットは自分の余生があまり長くはないことを知っています。そしてアラーの神が彼を楽園に迎えるか地獄に落とすかを決める時、彼がどれほど多く霊的功德を積んだかが

大きな要素なのだ、と信じこんでいます。

ある異文化で仕える働き人が、病気のために、定められた祈りの儀式を守れないことについて、一度彼と話をし、神は私たちの心をご存知であり、行動よりも心の態度の方に御心をお留めになるでしょう、と伝えました。表面の態度はよく見えても、内にある心は暗いように思える人たちをオン・アハメットは知っていたため、その言葉は彼の心に響いたようでした。それにもかかわらず、彼はまだ祈りの儀式を守ることで霊的功德をできる限り積んでおきたいと願っています。また、死後自分はどうなるのだろうと思いを巡らせています。

お祈りください：

＊多くの高齢者たちが、救しへの道、清め、そしてイエスのみわざを通して永遠のいのちを与えてくださる福音のメッセージを聞いて希望を見出せますように。

＊神がその福音によって、高齢者の持っている死後への恐れを取り除いてくださいますように。

＊福音を信じた高齢者たちが、他の人たちにも福音をはっきりと証していけますように。



Day 26

英語の学習

ティマは兄弟や親戚たちと住んでいます。家ではチャム語を話しますが、共通語のクメール語も堪能です。しかし、彼女は英語も学びたいと思っています。多くの人たちから英語が話せることはよい職とより良い人生を得るのに有利だと聞かされてきたからです。クメール人が経営する語学学校の学費は標準的なのですが、ティマの姉妹も勉強したいと思っていたため、家族にとっては高値の花でした。しかし、感謝なことに、以前この地域で働いていたある外国人がスポンサーになって、ティマと彼女の姉妹の月謝を払ってくれています。

ティマは勉強が好きで、今一生懸命勉強できることは彼女に与えられた贈り物だと思っています。そして、先生たちからも認められて、彼女の成績はほ

とんどいつもトップクラスです。英語を学ぶべきだと多くのチャムの人々は考えています。また韓国語など他の言語を学びたい人たちも増えていきます。しかし、第二言語の学習は通常の授業の枠外になるので、実際には難しいのが現状です。英語学習の経験があるクメール人教師に習うのが普通で、ネイティブの教師から教えてもらえる機会はまれです。そのため、外国人の働き人にはチャム人に英語を教えることを通し、良い影響を与える機会があるのです。ティマのように勉強熱心な人は多いのです。

お祈りください：

- *チャム人に学びのための必要と、他言語を学ぶ能力が与えられるように。
- *チャム人の他言語の学習のために外国人の働き人たちが良く用いられ、働き人たちの生き方が生徒たちの心をひきつける良き証となりますように。
- *英語を教えたり、衛生教育をしたりする短期の働き人が与えられるように。



Day 27

種まきと収穫

「善をなすなら、善を得る。悪をなすなら、悪を得る。」ほとんどのクメール人はこのシンプルな言い回しをよく知っています。ここには人生と行動についての哲学と見解が表れています。善を行うなら、見返りに現世でも来世でも良いものを得るでしょう。しかし、もし悪を行うならば、悪いものを受けるのです。この格言はクメール人の仏教徒にもチャム族のイスラム教徒にもお馴染みのものです。

チャムの人々は、霊的な功德と恵みをもたらし、天国への道を開いてくれ、地上では尊敬される人になるために善い行ないを心がけています。聖書もまた「蒔いたものを刈り取る」と語っています。同時に聖書は一人一人の

善行によるのではなく、キリストが成し遂げてくださった御業に基づく永遠のいのちについても教えています。

一般的に言えば、チャム人も含めたカンボジア人は、良いものを蒔けば、良いものを刈り取ると信じています。しかし、ほとんどの人が、良いことを行えば良い結果が得られると信じながらも、多くの「善人」が悪い物を受け、多くの「悪人」が良い物を受ける世界の現実も目の当たりにしています。中にはこの対比に疑問を抱く人々があり、それが福音に心を開くきっかけになっています。

お祈りください：

＊人々が「善をなすなら、善を得る。悪をなすなら、悪を得る」が、必ずしも当てはまらなと感じる時、彼らの心が福音に対してさらに開かれていきますように。

＊御父は人の善行によってではなく、へりくだって悔い改める心と信仰に基づいて人々を変え、救ってくださることを人々が知り、そのことから励ましを得られますように。

＊多くの人々が、聖書が善行をどう位置づけているかを理解し、他者に対して真に意味のある善行へと導かれますように。



Day 28

イスラム運動

カンボジアのイスラム教は、古典的なイスラム教の信条に加え、精霊信仰的な行為も行う“民俗イスラム教”と言えるでしょう。人々は霊界を意識し、護身やご利益のために、様々な霊をなだめたり、コントロールしようとしています。

この状況の中で、様々な保守的イスラム教運動が勢いを増しています。運動家たちが言うところの本来のイスラム教、精霊信仰の混じらない教えに信者たちを引き戻そうというものです。そして、服装も行動も預言者モハメッドになるべく近いものを勧めます。

こうした運動でカンボジアで最も顕著なものは、チャム族の中で20年以上も活発に活動しているダワッタビリと呼ばれるものです。女性は頭のてっぺんからつま先までの黒装束、そして男性はひげをはやすなど、中東風で保

守的な服装を勧めます。ダワッタビリは宗教教育施設を何校か運営しており、施設に住んで学ぶ多くのチャム族のスポンサーにもなっています。

しかし、この運動は多少の論争の的にもなっています。さらに熱心にイスラムの教えに従っていく上で学生たちの助けになると評価するチャム族がいる一方、霊的世界との関わりなど、従来の宗教的行為を変えようとする方針に怒りを覚えているチャム族もいます。

こうした運動を通して、チャム族は彼らのアイデンティティや宗教上の行動について深く考えるようになっていきます。そして、このような緊張した状況は、神が人々の心の中に働かれる機会にもなりえるのです。

お祈りください：

＊チャム人が自分たちの信仰や宗教上の行為について、良い部分もそうでない部分も含めて、理解するように。

＊どんな信仰や行為が正しいのかという議論が続いている中、神がご自身の真理をチャム人に表し、彼らをご自身のもとへ導いてくださいますように。



Day 29

ラーさんの物語

ラーさんは20代の女性です。韓国に出嫁ぎに行っている2年の間にクリスチャンになり、村へ帰ってきました。村へ帰ってくると、そこには定期的に集い聖書を学んでいるクリスチャンのグループがありました。そして、このグループに加わり、クリスチャンとして成長していく訓練を受けるようになりました。村の人々を積極的に訪問もしています。

かつては親にも近所の人にもひどい言葉で接していた彼女が、すっかり人が変わったようにやさしくなったのを見て、村の人々は不思議に思い、近所の一人は、私も彼女のように変わりたい!と聖書の学び会に加わるようになりました。

チャム族の村では昨今、韓国やタイ、日本へ出嫁ぎに行く人々が増えていきます。そのための準備として仲介者に

30万円から40万円もの大金を借金をしてまで払い、出嫁ぎに行くのです。けれども出嫁ぎに行った先で福音を知る機会も多くあります。

ラーさんのように海外で信者になり、村でよい証人として用いられる人が起こされています。ラーさんは主に仕えたいという思いが与えられ、神学校で学ぶお金を貯めるために、現在働き先を探しています。

お祈りください:

*ラーさんが村でよい証人として用いられ、将来よき働き人として仕える人となることができるように、御父が道を開き、導いてくださいますように。

*ラーさんのように海外へ出嫁ぎに行く人々が良い環境で働いて帰ってこられますように。出嫁ぎの場所で福音を聞く機会が与えられ、主を知ることができますように。



Day 30

強固な基礎を築く

「多くの証人たちの前で私から聞いたことを、ほかの人にも教える力のある信頼できる人たちに委ねなさい。」
(Ⅱテモテ 2:2)

チャム人伝道のために働き人たちを召し出される前から、すでに神はこの部族の中でみわざを始めておられました。異文化の働き人たちは地元のクリスチャンの診療所で働くことができ、貧しいチャム族の人々はそこで安い費用で治療してもらえます。このことゆえに主を賛美しましょう。この診療所を通して、多くの村々を訪問する道が開かれました。その中から福音を聞き、主イエスを救い主として信じる人たちが起こされています。今後彼らの中に、共に集ってみ言葉を学び、そうしてキリストにあって成長したい、という願いが起こされる必要があります。

しかし、恐れ、嘲り、自分には(集会を

導くことなど)できないという思い、忙しさなどのため、家庭集会として集うのはなかなか困難です。しかし、こうした障害にもかかわらず、定期的に集おうとしているグループもあります。

また、彼らが他の人たちに福音を伝えるには大胆さも必要です。いくつかの地域では、働き人たちが僻地の村々を訪ね、神の教会の建て上げを目指して地元リーダーたちと協力しています。特に雨季には通行が困難になる場所があります。こうした地域の信者たちは孤独を感じています。しかし、より多く聖書のみことばが彼らの手に入るようになり、もっと多くの信者たちが学び、教えられるようになれば、どんな地域であっても、信者たちの交わりは逃れ場と力を受けられる場所として築かれるのです。

お祈りください:

* 信者たちがキリストにあって霊的に成熟し、新たに信じた人たちを積極的に助ける責任を担っていきましょう。

* 信者たちが聖霊と知恵に満たされますように。

* 同じチャム族の人々に大胆に伝道するために、人々に対するキリストの熱い御思いが信者たちに与えられますように。



a people loved

good news for southeast asia's muslims

www.apeopleloved.com

For more information: info@apeopleloved.com